

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 次号目次 前号目次   |
| Sub Title        |   |
| Author           |   |
| Publisher        | 慶應義塾経済学会  |
| Publication year | 1961  |
| Jtitle           | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.4 (1961. 4)  |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            |   |
| Genre            |   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610401-0090">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610401-0090</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

次号目次

論 説

社会政策と生活構造……………中鉢 正美  
第一次大戦後の農業恐慌の性格(上)……………常盤 政治

資 料

経済活動の地理的側面に関する……………高橋潤二郎  
古典学派の所説……………飯田 裕 康  
信用形態にかんする覚え書……………  
——商業信用をめぐって——

学 界 展 望

財政学研究の最近の一動向……………大島 通 義

書 評

吉岡金市著 『森近運平—大逆事件の最もいたましい犠牲者の思想と行動』……………飯 田 鼎  
『ラブルール』——一つの存在形態——……………渡 辺 國 廣  
山田盛太郎著 『日本農業生産力構造』……………寺 尾 誠  
アラム・ヴァルタニアン著 『ラ・メトリーの人間機械論』……………野 地 洋 行

新刊紹介

前号目次

論 説

プランキに関する断片……………平井 新  
「国民の職分」にかんする若干の考察……………田 中 明

資 料

十九世紀末期から二十世紀初頭にかけてのドイツ帝国東部および中部における農業季節労働者の状態……………飯 田 鼎  
巨視的計量経済模型の動学的性質に関するふたつの研究について……………西川 俊作

書 評

ボルシェネフ著 『フロンドの乱前のフランスにおける暴動』……………渡 辺 國 廣  
W・スターク著、杉山忠平訳 『知識社会学——思想史の方法』……………飯 田 鼎  
W・スターク著、杉山忠平訳 『経済学の哲学的基礎』……………白 井 厚  
サン・シモンの歴史観に関する二つの論文……………野 地 洋 行  
国有化問題をめぐる最近の文献……………丸 尾 直 美

新刊紹介

編集後記

春風ふたたびめぐり来ってわが頬をなで、ここに新しい年度を迎えようとしている。思えば安保闘争、三池争議、はたまた相継ぐテロ事件と世情騒然としたうちに、学的研究と社会的実践の間に彷徨して来た昨今であった。その余蘊なおつきず、所得倍増への希望も幾多の不安を払拭するものではない。このような世の実情である故に、学問の実証性が要求されるとともに、またそれ故にこそ実証的科学的社会的実践に対する重要性を考へなければならぬのである。時の流れの中において、それに流されず、そして又それより離れず、専門的研究を行うことの難きを痛感するとともに、学会雑誌の使命を熟考せしめられるのである。

ここにわが経済学部中堅の精鋭、飯田、矢内原、尾崎の三君の論説と防衛大原、博士過程丸尾両君の経済政策専攻の立場からする資料を掲載することとした。飯田君の論文は前後三回にわたるイギリス労働運動に関する力作の中篇であり、矢内原君のものは低開発国経済の研究の一環としてビルマの米輸出の分析を行うもの、また多年研究されてきた労働供給の考察をなすものが尾崎君の論説である。

これらの諸論稿に対して論ずべきは論じ、争うべきは争い、さらに一文を寄稿され、この雑誌をして活潑な批判、反批判の場とされ、相たずさえて広く経済学の発展に貢献をなしうるならば、編集者の喜びこれにまさるものはない。

(富田)

昭和三十六年四月一日 発行

◎三田学会雑誌 第五十四巻 第四号

定価 九〇円(送料別)

東京都港区芝三田二丁目二番地

慶應義塾経済学会

編集兼 代表者 山 本 登

電話三田(41)五一八一  
振替口座番号 東京四四〇五六

印刷者 東京都港区芝三田豊岡町八番地  
図 書 印 刷 株 式 会 社  
安 倍 七 郎

半年予約購読料(送料共) 五四〇円  
一カ年 " " " 一〇八〇円  
御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

東京都高輪局区内三田綱町一番地

発 売 所 慶 應 通 信

振替口座番号 東京一五五四九七